

本当にキラキラするけれど何の意味もないもの

人は古くから輝くものに惹かれてきました。ライアン・ガンダー氏は、彼のインスタレーション、何も意味しない本当に輝く作品を通じて、この生来の魅力を探求しています。この巨大な金属球は、磁気を帯びた何千もの小さな光る物体で構成されており、識別できるものです。G ガンダー氏の作品は、人々を光り輝く物体へと駆り立てる根深い欲求に疑問を投げかけているようです。

物体に帯びている磁気は見えませんが、その結合力がなければ破片はばらばらになってしまいます。この不可視の力という概念は、太宰府天満宮の周囲にシームレスに溶け込んでいる信仰と信念に対応しています。